

9月10日は「下水道の日」

鹿児島市水道局

チラシ等で街頭キャンペーン

正しい理解と関心を



市民にチラシ等を配布する職員ら
＝鹿児島市の山形屋横で

9月10日の「下水道の日」を前に鹿児島市水道局(中村忍局長)では4日、大勢の市民や買い物客などが集まる商店街や

スーパーなどで、恒例の街頭キャンペーンを実施した。

同キャンペーンは、鹿児島市民に下水道に対する理解と関心を深めてもらうという、毎年今の時期に実施しているもので、主婦らを対象に台所から下水道へのごみの流入を防ぐ水切りフィルターやキッチンペーパー、チラシ約2000セットを配布し、市民に啓発を促した。

この日は水道局職員13

名瀬市や地元業者ら

海岸清掃等で普及PR

名瀬市水道及び下水道課と市内排水設備指定工事業者も4日、9月10日の「第44回下水道の日」にちなみ海岸清掃、技術者講習、チラシ配布などを行い、下水道普及に努めた。

市では1日から庁舎での懸垂幕設置、各個所での横断幕設置のほか資料ポスター掲示などの広報活動で下水道のPRを行っている。市街地では水洗化への切り替えが行われているが、未接続区域、グ

店を対象にした技術者講習会があり、排水設備の新しい施行基準などについて学んだ。また市内の朝日海岸では市職員と排水設備業者ら約60人がごみや空き缶を拾うなどの清掃作業を行った。海岸には台風で打ち上げられた雑木やガレキが散乱しており、参加者らはそれらのごみを袋に回収していった。市街地では水洗化への切り替えが行われているが、未接続区域、グ



技術者講習会で挨拶する盛正弘下水道課長
＝名瀬市の奄美振興会館で

人が3班に分かれて市内3カ所(タイヨー坂之上店、ダイエー鹿児島店、中町ベルグ通り商店街)でキャンペーンを行った。市内金生町の山形屋横でキャンペーンに参加した

川内川治水説明会

被害状況から防災認識

川内川河川

九州地方整備局川内川河川事務所は2日、川内市の国際交流センターで川内川治水説明会を開き、過去の災害状況や治水の現状を踏まえ、住民らに被害を最小限に抑えるための施策等について解説した。

流域の住民ら約200人が参加した説明会では、災害意識の高揚を呼び掛けた説明会＝川内市の国際交流センターで

まず、矢野日出東河川事務所長が「台風16号による被害は少なかつたが、依然として川内川流域は過去の災害状況や治水の現状を踏まえ、住民らに被害を最小限に抑えるための施策等について解説した。今後は住民と行政が一体となって防災に取り組み、矢野日出東河川事務所長が「台風16号による被害は少なかつたが、依然として川内川流域は過去の災害状況や治水の現状を踏まえ、住民らに被害を最小限に抑えるための施策等について解説した。今後は住民と行政が一体となって防災に取り組み、

組んでいくことが必要」と挨拶。引き続き行われた説明会では、同事務所の林健太郎調査課長が昭和40年代に頻発した流域での災害状況を写真で解説。「当時の川内川はまさに『暴れ川』で、これまで数多くの方々が治水に携わってきた。近年では、北陸や四国等大災害が発生しているが、他人事として受け止めてはいけません」と防災意識の向上を促した。また、近年の治水事業について「河川改修は下流域の受け皿を確保することが重要で、鶴田ダムが果たす役割は大きい。現在は天大橋から上流部で引堤を実施中であり、一定期間後に旧堤を掘削し河積を拡大する」などと内容説明した。

このほか同日は、鶴田ダムの機能や川内市の防災計画等についても解説。防災意識の高揚から地域治水に対する住民の盛り上がりと呼び掛けた。

鹿児島銀行、県内景況

公共、民間建築とも低調

鹿児島銀行はこのほど、最近の県内景況を発表した。総括では「生産活動が順調で、個人消費は一部に持ち直しの動きが続き、観光面も好調さを持

続けているほか、雇用情勢も改善傾向となるなど、全体としては回復に向けて動きが継続している」と報告。その中で、建設業関連は「公共工事、民間

建築ともに低調」と厳しい現状を指摘した。生産活動については、7月の生コン生産が、公共・民間工事向けともに前年を下回り、引き続き低調に推移。木材関係では、住宅建設向けの需要不振から製材品は生産・出荷ともに低調に推移。この間、市況は国産材では原木は弱含み、製材品

は持ち合い推移だが外材では供給減の影響が続き、原木、製材品ともに強含みで推移している。建設関連では、7月の公共工事発注は前年を下回り、受注状況の厳しさが続いている。また、民間建設工事は、商業施設に大型物件の着工が一部見られるものの、全体的に件数が少なく、厳しい

受注競争が続いている。6月の新設住宅着工戸数は、前年比17・4%減と再び前年を下回った。用途別には持ち家は25・3%減、貸家は13・8%減となったが、分譲はマンション着工の増加から7・6%増。7月の主な主要建設資材卸売業者の売り上げは、資材価格上昇の影響もあり引き続き前年を上回ったが、建設需要は依然少なく厳しさが続いていると報告した。

道路活用社会実験スタート

オープンカフェ等試行

道路空間の新たな活用による中心市街地の再生を目指す「天文館中央地区アメニティ空間づくり」が4日、鹿児島市の天文館・ぴらもーる内でスタートした。

この日は、オープンカフェ・セレクトモーターとして中央地区商店街振興組合連合会(平岡太一理事長)や九州地方整備局鹿児島

長など実施団体の代表らが出席。テープカットを行いスタートを祝った。セレモニーではまず、平岡理事長が「11月7日まで(土・日・祝日のみ)24日間の日程ではあるが、同事業が実験で終わることなく継続して実施できることに期待する」と挨拶した。続いて遠藤所長が「全国19カ所を実施が予定している。鹿児島が

先陣を切ってスタートすることにしているが、全国のモデルになれば」と期待を込めた。同実験は、鹿児島市の天文館中央地区においてオープンカフェやイベントなどを試行し、その後は継続的に来街者が楽しめる道路空間の活用に向けた仕組みを築くもので、地域(商店街)とTMO(街づくり機関)および行政の連携の下、イベントなどを継続実施することでの街の活性化を図ることが狙い。

テープカットでスタートを祝う関係者
＝鹿児島市の天文館・ぴらもーる内で

大崎町下水道連絡協議会
10日の「下水道の日」に啓発活動
大崎町下水道連絡協議会(萩原洋一会長、27社)は9月10日の「下水道の日」に、町内の処理施設(クリーンセンター)の施設研修会と役場担当職員と共に未接続者宅個別訪問を行い、啓発活動を実施する。

ボディボードに夢中

帆足 めぐみさん

学生時代からスポーツが大好きでしたが、社会人になってサーフィン体験スクールに参加したことがきっかけでボディボードの楽しさに夢中です。波が



一定でない、毎日コンディションが変わる状況ですが、これを機に一段とのめり込んでいきそうです。ぜひ、来年はリベンジを果たしたいと思っています。

これから仕事とプライベートをしっかりとこなしていきたいですね。(株大進)